

# 最新の空白飛行試験地

## 九条の会 岐阜基地の現状学ぶ

「安保法制(戦争法)で航空自衛隊岐阜基地がどう変化しているか」。岐阜市で8日、岐阜基地(各務原市)の監視・調査を続ける県平和委員会常任理事の鷺見鎮一さん(68)の報告を聞き、話し合

う集会が開かれ、19人が参加しました。主催は岐阜九条の会のサロンの例会会。

鷺見さんは、岐阜基地が明治初期に旧陸軍の大砲射撃場として開かれ、日本で最も長い歴史をもつ基地だと紹介。戦後、米海兵隊が駐留し、第3海兵師団が沖縄に移転したあ

と、航空自衛隊岐阜基地となり、1988年に日米共同使用の基地となった経過を説明しました。

現在では、一番新しい航空自衛隊機の試験飛行を行う「飛行開発実験団」の中心部隊として月曜日から金曜日まで毎日飛行訓練(火曜日は夜間も)し、周辺住民から騒音苦情が広がっています。それなのに防衛省が30年続けてきた防音対策としてのNHK受信料補助(年上限額6995円)を打ち切るなど許されないと指摘し、安倍政権の軍事優先、住民犠牲の政策を厳しく批判しました。

参加した女性は「子どもたちが『自衛隊カッコイイ』というイメージをもってしまつことが恐ろしい。危険な実態を知らせないと大変なことになる」と語りました。

鷺見さんは、「自衛隊カッコイイ」と基地に集まるマニアの中にも、安倍9条改憲反対署名を呼びかけると「戦争に出て人を殺すことに使ってほしくない」と署名する人がいることも紹介しました。